
曾良はダレのモノ!?

明日香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

曾良はダレのモノ！？

【Nコード】

N6546M

【作者名】

明日香

【あらすじ】

とにかく曾良君を愛す小説。
曾良君総受け。

(前書き)

キャラ崩壊。

作者&p;キャラ大暴走。

みんな変態。

変態は正義！！

曽良君がヘタレ。

以上がダメな方は今すぐにフォーエバーを。

曾良は

ダレのモノ!?

妹曾

「曾良さあん♪あゝんしてください♪」

「妹子さん?」

「曾良さんの好きなパフェ作っただんでえ、僕が食べさせてあげます♪」

「その・・・ありがとうございます・・・。」

（かわいい!?!?!もう我慢できない!）

「曾良さん、目えつぶってください♪」

「?こうですか?」

(曾良さんのキス、頂きます♪)

「ちよつとまったああああ!!!!!!!!」

妹曾↑太

「太子さん?」

(チツ・・・!!邪魔が入ったか・・・!!畜生太子め・・・!!)

「ハッハッハ、妹子がやることなどすべてお見通しだ!なんたって私はえらい摂取だからな★さあムツツリ辛!!観念しろよ!!」

「嫌です。曾良さんは僕のものです!!」

「妹子ゝいいのか?休憩時間、そろそろ終わるぞ?遅刻したら馬子さんに怒られるぞ?」

「~~~~っ!!!!!!畜生ッ!!!!!!」

「フツ・・・このスーパーイケメン摂政様の手に掛ければあんな芋ころちヨロいもんでおま!!」

太曾

「あの・・・太子さん？」

「曾良、お前は可愛いんだから、もう少し気をつけないとああいう変態やろうに犯されちゃうぞ？」

→

注：貴方も変態やろうのなかの一人です。

「はい・・・。」

「わかればいいんだ♪さあ曾良、一緒に遊ぼう？」

「ストゥップ★そうはさせないよ、太子♪」

太曾↑閻

「閻魔!!!.....曾良だけはたとえ閻魔でも渡さないぞ?」

「そ〜ゆ〜と思ったあ♪まあだめって言われても無理やり奪うけど
ネ★」

「ふっ.....!!やろうってのか?望むところだ!!」

「あっ!!!!あそこにちよ〜かわいいわんちゃんがいるう〜!!」

「えっ!マジで!?!どこどこどこ〜!!」

「今のうちに逃げよう曾良っち♪」

「へっ.....?ふえええええ!?!」

「そうはせん!!私が騙されと思ったか!」

「チッ.....!!太子、いい加減諦めたらあ?」

「やだね、曾良は私のだもん。」

（太子さんと閻魔さんがにらみ合ってて怖い・・・。）

「ちよっとなにやってんですか大王たち！！曾良が怯えますよ！！！」

鬼曾↑閻十太

「あっ鬼男君。」

「曾良？大丈夫？」

（鬼男さんが頭撫でてくれた……。鬼男さんの手、温かい……。）

「はい……。あの……。もう少しこうしてて……。ほしいます。」

「ああ。」

「………って……なにとんじやいつ……!!!!」

「なにちゃついてんの、君ら!？」

「二人だけの世界かよチクショー!!!!!!」

「なっ、僕は……そんな……い、いちゃついてなんて……」

「鬼男君照れてる……!!」

「そういうヘタレキャラは今は曾良だけで十分だからさ。」

「とつとと失せな。」

→

太子& a m p ; 閻魔のブラックモード（笑）

「うっ……だっ、大王!! 曾良に手えだすんじゃねーぞ!!!!!!」

「ふう……。鬼男も案外ちよろいな。」

「あとは……………」

（（コイツだけだ……！！！！））

「太子さあ、もう諦めてよ。曾良っちは俺のもんだし？」

「いいや、私のもんだ。な？曾良。」

「あの…………太子さん。」

「ん？なに？」

「カレー臭い…………です。」

「！？そ…………、そんな…………わ…………、私が…………」

《太子は精神ダメージを100受けた！！戦闘不能！！》

「そん．．．な．．．ばかな．．．」

「ははっ！！太子さまぁ♪」

「チクショー！！！！！！待ってろ曾良！！！！いつかカレー臭くなくなったらまたアタックすっからな！！！！曾良のためなら脱カレーだってするからな！！！！」

閻曾

「曾良っち♪邪魔者もなくなったしさぁ〜」

「えっ、閻魔さん？」

「オレと、イイことしない？」

「．．．．．ふえ？ちよっ．．．閻魔さ．．．やめ．．．！！」

「おとなしくしなよ、曾良。優しくしてやんないよ？」

《閻魔ドSモード（笑）》

「閻魔君。」

閻魔↑芭

「なにしてんの？」

「ばっ、芭蕉さん・・・!!」

「なに人の子に手出してんの？」

「いや・・・あの・・・その」

（芭蕉さん、黒いオーラが・・・。）

「曾良君は私のだから。」

「えっ？」

「さあ行こう、曾良君。」

「あの・・・芭蕉さん・・・？」

「誰かについて行かないように私が調教してあげる。」

「芭蕉・・・さん？」

「私だけの曾良君。」

(後書き)

海の日は恐ろしい。

私の妄想が大爆発します (笑)
なんか・・・ごめんなさい。

でもこれだけは言わせてください!!

そらくううん!!!

愛してるううう!!!

海の日サイコー♪♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6546m/>

曾良はダレのモノ!?

2010年10月9日05時11分発行